

# NEWS LETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

●巻頭エッセイ ..... 1  
 ●特集：教職課程開設記念 教員研修 ..... 2  
     ・ 概要紹介 ..... 2

・ 参加者の声 ..... 3  
 ●授業の玉手箱 ..... 4  
 ●書籍紹介 ..... 4

## 巻頭エッセイ

中井 弘一

### デザイン力の大切さ

本学4年制教職課程が文科省により認定され、この4月より開設する運びとなりました。これからの教育を担う英語科教員の育成に全力で取り組む所存です。

さて、教育にはデザインが必要です。全体を俯瞰し、様々な課題を整理して考え、どのような構想でどのように着手していくのかをはっきりさせておかないと、やみくもにエネルギーを使うだけで成果が得られず、徒労感だけが残ります。

本学の教職課程では、「授業デザイン力」の育成に重点を置いています。これには「考える力」が必要です。ある現象があれば、その要因となる背景や直接的な原因がどうからんで、そのような結果を生み出しているのかを考え、何がその対処に当たって効果的であるのかを考察し、その対処方法を具体的に工夫していく必要があります。こうした、全体構造を論理的に把握し、それをわかりやすく生徒に説明し、学ぶ生徒がなるほどと思って学習できるようにする指導力、これが教員に求められる「考える力」でしょう。

たとえば、本学でも入学時の学生にテキストを読ませたり、学生と英語で対話したりすると、一語一語を区切ってゆっくりと、しかもその発音はカタカナ英語で言葉が返ってきます。コミュニケーションが大切と言われていますが、こうしたただどしさと、中身のある対話ができるのだろうかと思えます。さる1月5日の朝日新聞朝刊3面に、来日35年のブロードキャスターの英国人ピーター・バラカン (Peter Barakan) さんのインタビュー記事「2010年代 どんな時代に ・国際化と日本」が掲載されていて、その中で、バラカンさんは、「内向きなカタカナ英語」について所見を述べておられました。「僕の番組に出演する日本人ゲストが話す英語が文法的に正しくても発音が極端に分かりづらかったり、英語のカタカナ表記が間違ったりしていることが多い。たとえば『マネー(金)』は『マニ』、『モンキー(サル)』は『マンキ』と書くのが実際の発音に近い。日本が会話よりも文字で西洋文明を吸収してきたのは事実だし、カタカナがそれに貢献したのも理解する。それならもっと近い表記に柔軟にすぐに変えればいい。だけど、もっと気になるのが、

僕が間違いを指摘しても、『日本ではこれで通じるから』と軽くいなされること。特に固有名詞の発音には無頓着だ。…(中略) …『日本人同士でわかるのだから、間違ってもどこが悪い』という論理は少し高慢でないかとすら思う。つまり英語が世界とコミュニケーションをとる言葉でなく、日本人の内輪の世界でしか通用しない記号と化している。…後略…」とありました。

その昔、Americanを「メリケン」としていた時は、聞こえるとおりにカタカナ表記していたのでしょ。それが、時代とともに「アメリカン」となっていました。単語ひとつを覚えるときにも、このカタカナ英語的な発音が日本人学習者にはどうもついて回るようです。日本人学生の英文朗読のまづさの根本的な原因はここにあるように思えます。学習者には、語彙力がスペルという呪縛を第一とした単語暗記になっていて、ことばとして発音できることより、そのスペルやルールにばかり気が向いているようです。こうなると聞き取りにまで影響します。

「英語が聞き取れない」理由には様々なものが考えられます。

1. 英語を正しい音声で覚えていない。
2. 速度についていけない
3. 語彙不足
4. 英語のリダクションに慣れていない
5. 背景的知識が不足している

この中の、1の「英語を正しい音声で覚えていない」が根本的な課題ではないでしょうか。

英語が聞き取れるということは、まず何よりも頭の中に記憶されている英語の音声と耳で聞く英語の発音が一致していることです。それは、人間の脳は記憶したとおりに判断するからです。だから、個々の単語の発音を適当に覚えるのではなく、しっかり発音して正しく記憶しておくことがとても大切なこととなります。ですから、単語力・語彙力をつけるにはスペルだけを注意するのではなく、聞き取りにつながるようしっかりと発音力をつけることが授業デザインに望まれるということがわかると思います。

音声理解を目的・目標とする授業デザインには、「発音力」が「英語の楽しさの(再)発見」「リスニング力のアップ」「単語力のアップ」「英語の感性の磨き」につながるという理念を押さえた言語活動や学習活動をデザインすることが必要になります。

授業デザインとは学ぶよるこびを抱かせ生徒を幸せにすることです。ともに、授業デザイン力を考えていきましょう。



大阪女学院大学

教職課程開設記念 教員研修

2010年3月13日(土) 於 本学

テーマ: 「論理的思考力や表現力を高める英語授業のデザイン」

去る3月13日、本学にて、大阪女学院大学教職課程開設記念教員研修を行いました。21名の受講申し込みがありましたが、前日と当日に4名の方から急用で欠席の連絡をいただき、17名の参加者でアットホームな雰囲気を実施いたしました。4コマの研修内容の一部概略と参加いただきました先生のコメントや日頃の授業で感じておられること(これからの課題)を紹介します。

■ 研修のねらい

高等学校新学習指導要領(外国語)では、コミュニケーションを一層意識させる科目が設定されています。情報をどう受け止め、どのようにレスポンスするかがコミュニケーションとしての英語力育成の基本スタンスとなっています。ここに求められているのは思考力です。それは急激にそして多様に変化する社会で「考え抜く力」が一層必要とされているからと思われます。物事を生み出したり改善したりしていくには、常に問題意識を持ち課題を発見することが大切です。その上で、課題を解決するための方法やプロセスについて十分納得のいくまで考え抜く力が必要となります。本研修では、こうしたことを踏まえ、総合的な言語処理として思考力を呼び起こすリスニングの授業、英語と日本語の違いを意識し論理的な思考力を育成するリーディングの授業、英語表現としてのライティングをどのように構想するかなどに焦点を当て、授業デザイン力を再考する実践的な研修を行いました。

■ 研修概要(概略紹介)

「思考力を呼び起こすリスニング授業の基本構想」

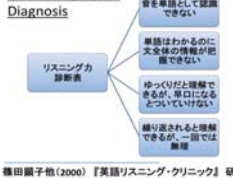
本学 教授 東條 加寿子



【要点】

- リスニングは時間軸のある情報処理過程と捉えることができる
- 情報処理の負荷を軽減する方略が必要である(順送り理解、予測性・「こころの情報」の稼働)
- 情報を構造化していくことは、とりもなおさず思考することである

それでは、リスニングのどこでつまづいているのか?



情報処理過程としてのリスニング

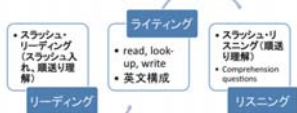
- 音声は不可逆である
- 内容理解の時間と順序が定められている
- 効率的な内容理解が求められる
- 頭からの順送り理解が不可欠
- スラッシュ・リーディング/スラッシュ・リスニングのすすめ

Sight Translationの薦め

- スラッシュで区切られた句を目視し、その部分から情報を取り込み、理解した内容を日本語にしながら読み進める
- 言語化することによって理解の度合いを確認することができるとともに、集中力が高まる



教材の総合的活用



「思考力を高めるためのリーディング授業の基本構想」

本学 教授 中井 弘一



【要点】

- 思考力を高めるリーディング授業の設計方略は、教材のおもしろさを見つけ、教材の根底にある主題を理解し、考える力を育成するための interaction (問いかけ) を通して展開する授業を設計することである

1. 教材の読み込み

- テキストのタイプ
- テキストが伝えたいメッセージとキーワード
- 豊かな英語表現・日本語とは異なる英語らしい表現
- 筆者の意図・感情が伝わる表現
- テキストの論理構成
- テキストのアウトラインマップ
- 題材に関する情報の収集
- テキストの類似英文、反対の考えを持つ英文の収集
- 挿絵や写真の理解
- グラフや表の理解と補助資料
- 導入のための補助資料

2. 指導目標・指導項目の設定

- 生徒に何を学ばせたいか
- 読解力としてどのようなことをチェックするか
- テキストの何を理解することが大切か
- 機能文法からのリーディング 語・語法・文法表現
- content-based understandingがらみたテキストの理解

言語活動の基本的アプローチ



思いがけないことば

何を認識しているのか  
文章全体が伝えたいことは何か

写真家の心算が分かる文はどれか。  
中心の心算が分かる文はどれか。  
どのような表現で書かれているか

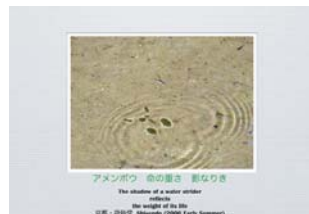
毎年のように年が経つたらどのようになるか  
何を覚えておきたいのだろうか

何を覚えるべきか  
requiring a great deal of endurance or physical or mental effort  
必要な努力、しんどい、大変なこと



「伝える・伝わる英語表現活動としてのライティング指導の基本」

中井 弘一



「ライティング指導におけるコーパス分析活用の基本的な取り組み」

東條 加寿子

話し言葉	書き言葉	書き言葉と話し言葉の出現頻度
1 be	1 the	
2 the	2 of	
3 I	3 be	
4 you	4 to	
5 and	5 and	
6 it	6 a	
7 to	7 in	
8 have	8 have	
9 a	9 he	
10 not	10 it	

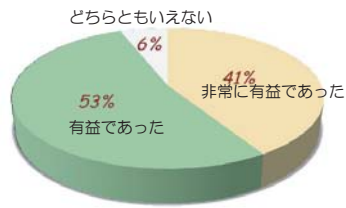
トップ100に占める品詞の割合		
品詞	出現数	特徴
代名詞	18	接続詞 it, I, you, he, they, she, etc.
動詞	16	基本動詞 be, have, do, say, go, etc.
副詞	15	接続詞 not, there, out, up, so, etc.
前置詞	13	接続詞 of, in, to, for, on, etc.
限定詞	11	接続詞 this, that, which, what, all, etc.
接続詞	9	接続詞 and, that, but, or, as, etc.
助動詞	6	接続詞 will, would, can, could, should, etc.
名詞	4	内容語 time, year, people, way
形容詞	4	内容語 last, other, new, good
冠詞	3	接続詞 the, a, an



## ■ 参加者の声

### 【研修全体について】

「非常に有益であった」…7名、「有益であった」…9名、「どちらともいえない」…1名、「あまり有益でなかった」…0名、「有益でなかった」…0名の回答結果でした。



### 【研修全体に対するコメント（一部）】

- ・分野が多岐に亘っていたので、たとえばリーディングにテーマを絞った講座であるとより深い研修ができるように思います。
- ・自分が知っている内容もありましたが、そうなのかと今回初めて知る内容があって、充実した時を持たせていただきました。
- ・講師の先生方の英語教育に対する熱意が存分に感じられました。

### 【個々の講座のコメント（紙面の都合上、一部のみ紹介）】

#### 「思考力を呼び起こすリスニング授業の基本構想」

- ・リスニング力の増強に同時通訳者の訓練法（sight translation）を用いることを興味深く思った。普段の授業では必要以上に多くのスラッシュをつけすぎて、全体を見られない生徒がいて、これまであまり進めてこなかったがリスニングのために取り入れてみたい。
- ・「reading と speaking でスラッシュの位置が違う」と確認させてもらった。なんとなくそうではないかと思っていたのが確信させてもらったので生徒にスラッシュ位置を指示するときに自信を持って示せるようになった。
- ・スラッシュ・リーディングは私もやっていますが、声を出さながらチャンクごとに読むという活動はおもしろかったです。前から順番に英語を読むようにと指導しています。その訓練になると思うので、ぜひやってみたいと思います。

#### 「思考力を高めるためのリーディング授業の基本構想」

- ・教材を徹底的に読み込み、しっかりと「ねらい」（生徒に何を考えさせたいかという目的を設定した上で）を定めることの大切さがよくわかりました。同じ教材でも切り口次第で、いろいろな使い方ができるのだと改めて思いました。
- ・教材研究の大切さ、大変さを改めて痛感しました。どこに焦点を置いて授業を組み立てるか、他の先生とどのように協力し合って行っていくか考えさせられました。他の先生に、来週早速今日学んだことを話したいと思った。
- ・内容が盛りだくさんで消化するのが大変でしたが、普段の授業ではついつい内容に関する発問より、文法事項の確認の方に時間を割いてしまいがちで、教材を読み込んで生徒の主体的な取り組みをどう引き出すかという考え方が参考になりました。

#### 「伝える・伝える英語表現活動としてのライティング指導の基本」

- ・「彼らはホームレス生活である」の英作は、（注文の際の）「私はウナギ」の英作文を思い出させます。主語が省略されがちな日本語の特徴を再認識させるべきですね。自らの研修と重ね、余裕を持って取り組みたいと思います。
- ・まず日本語が何を伝えようとしているのかを、元の日本語にとらわれずに考えていき、そこから英語の表現方法を考える必要がある。生徒の英作文の添削には、生徒が考えた文を尊重しながら、添削していくように工夫する必要があると思われた。

- ・ディベート形式を含め、ライティング活動の例をたくさん示していただきました。英文俳句は少しむずかしすぎる（本校の生徒には）と感じられましたが、使えるものもありました。でも、結局、それ以前にきちんと伝わる英語で書かせる指導が大切であるとことを改めて認識しました。

#### 「ライティング指導におけるコーパス分析活用の基本的な取り組み」

- ・自分でコーパスを作れるサイトがあるというのは、初めて聞いたので、機会があれば使ってみてみたいと思いました。
- ・英作文の指導に有用だとは思うのだが、なかなかつかえていない。特定の目的、何か具体的な調べ対語や項目が必要だと感じた。earthquake の分析は、日本人の「地震」の感覚と異なるものが感じられておもしろかった。ニュース報道文を集めてみるのは有用なヒントになった。誤用分析は自分の学習にも役立つと思う。

#### 【英語の授業において一番関心があり、知りたい学びたいこと】

- ・英語教育の目的とは、突き詰めると何なのか。
- ・サイトトランスレーションです。それと生徒の思考力を呼び起こす授業。
- ・「できる」英語の訓練法
- ・中高一貫校での6年間の流れ。導入法
- ・リーディングの指導法
- ・今後、オール・イングリッシュでと言われたとき、学力低層や、英語嫌いの生徒にどう学習に取り組みさせていけばよいか。
- ・英語 I、II、リーディングで、日本語訳をどこまで提示してやるべきか。どうしても訳に頼ってしまう生徒が多く、英文にあまり注目しない傾向があります。ただ、中～下位層の生徒もいるので、訳なしで授業するのは不可能です。
- ・CALL の使いこなし方、テレビ会議システムの発展の仕方
- ・効果あるリーディング教授法



#### 【英語の授業で一番困っていること】

- ・導入・発展問題 ・生徒の力の差 ・教材作成
  - ・発音・語彙・内容理解・個々の考え等、多くのことを教えたく思いますが、テスト範囲に合わせるため急ぐ必要があることが多く、十分に個々の教材に取り組みないこと
  - ・拒絶する生徒
  - ・英語だけではなく、授業全体に無気力な生徒が何人かいます。たとえば、問いかけをしてもすぐ、「わかりません」と答え、次の生徒も「わかりません」。なかなか参加してもらえません。叱ると雰囲気悪くなりますし、どうしたら授業を活性化できるか考えています。
  - ・ライティングで生徒のつくった文の正誤判断（特に微妙なニュアンスの違い）
  - ・進学校でないので、本文を理解する（読む、文法解説なども含め）のに、とても時間がかかり、正直なところ、なかなかそれ以上のことをする時間がない。理想の授業まではまだまだ道のりが遠い気がします。
  - ・文法の教え方、英語でどう教えるのか。
  - ・英文を読むことの楽しさをどう生徒に伝えるか。（多読指導につなげたい）英語についての発見を興味につなげていきたい。
  - ・特に3年生の受験を控えている生徒に対しての指導。どのように、受験指導と活動を取り入れたような授業を結びつけるか。
  - ・評価方法
- 学校現場での現実はどう対応していくか、これはいつも課題です。

## 授業の玉手箱

文部科学省指定 英語教育改善のための調査研究授業  
大阪府立泉陽高等学校 公開授業

報告：中井弘一

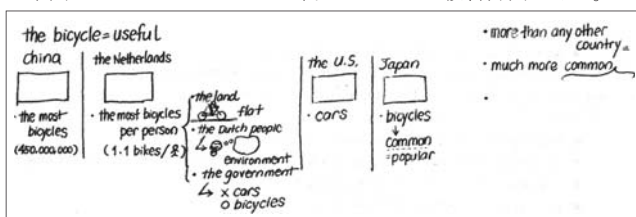
去る1月22日、文部科学省指定英語教育改善のための調査研究授業として、大阪府立泉陽高等学校で「総合英語」と「英語I」との二つの公開授業が行われた。当校の研究授業の研究テーマは「思考力・分析力を鍛えるリーディング指導とそのための語彙・文法指導のあり方」である。本事業の運営指導委員の一人として、今回、「英語I」を担当された福島玲枝先生とは時間調整がうまくいき、研究テーマに沿った授業をどう設計するかについて事前に2回話し合うことができた。当日の福島先生の授業はスピーディ、スキルフルかつパワフルで授業参観者一同を圧倒するものであった。

今回、授業準備に非常に熱心な福島先生と話し合った授業設計のポイントのいくつかなどをここに紹介し、玉手箱としたい。

最初に行った作業は、徹底した教材の読み込みであった。The Bicycle - The Most Advanced Vehicle Ever Created という教材を思考のプロセスから、「語法・文法」というfunctionの観点と教材の理解・整理・分析というcontentをベースにする観点から本課の解釈に努めた。テキストで使われている自転車のadvanced, efficient, usefulとはどのような基準から考えられるかを本課の思考力育成の柱とする。添付されている表やグラフの読み取りから何が導き出せるか考えさせる。セクションのメッセージを問いかけによるインターアクションを通してアウトラインマップにまとめ、生徒にテキストを整理する能力をつけるなどを考えた。その上で、授業のProcedureは次のよう設定された。

- (1)Greetings
- (2)Words' Quiz from the wordbook ( 英単語・熟語 EG3000)
- (3)Review of the Previous Lesson
  - Phrase Search
- (4)Comprehension of Today's Parts
  - Oral interaction for thinking activation
    - Asking questions on the contents
    - Making an outline map
    - Analyzing the graphs
- (5)Consolidation 1: Reading Aloud
  - (to confirm the understanding of the paragraphs)
  - Chorus Reading, Buzz Reading, Pair Reading
- (6)Consolidation 2: Pair Practice and Presentation
  - Summarizing main ideas
  - Oral Presentation in pairs

下図はoral interactionで本文をまとめる板書計画である。



目の前でテキストの内容を整理し、構造化することはリーディングにおける思考力の育成に繋がるものであった。

福島先生の50分間の授業で、ペースダウンされた方が生徒の発言をもっと引き出したかなと思われる場面もあったが、公開授業ゆえできるだけ多くのことを見せたいと意欲的に授業を進められた。発話というアウトプット活動を常に授業終了時に設定されており、用意された挿絵を参考に順番を自分で考えテキストのサマリーを口頭でペアで話させるプロダクション活動を行って授業を締めくくられた。



【福島玲枝先生（現在：関西大学中等部・高等部）より】

いただいた数々のアドバイスから再認識したのは、「教材を『面白く』切り込む重要性」、そして「活動に生徒の発想の余地を盛り込む大切さ」です。「知りたい」→「読みたい」「面白い」→「話したい」となるコミュニケーションの基本に立ち返り、これらを抜かしていかなる活動もあり得ないことを改めて実感しました。

### 書籍紹介

田中武夫・田中知聡（2009）『英語教師のための発問テクニック：英語授業を活性化するためのリーディング指導』大修館書店 2,200円



教師は常に授業の中で発問を通して生徒に働きかけている。発問は授業の重要な構成要素であることは言うまでもないが、発問を軸にして授業を構造化しようというアプローチは稀有である。いわば逆転の発想であるが、英語リーディング指導における発問のテクニックを紹介した本書は、授業の在り方の本質にそつなく迫っている。

本書では、発問を中心とした授業づくりのプロセスを、1)教材の解釈、2)生徒の把握、3)目標の設定、4)発問の考案の4段階に分け、各段階でのポイントを実際の教材に沿って具体的に説明している。教師が周到に準備した発問を通して、教材に対して生徒が心を開くように動機付け、メッセージの正確な理解を促し、内容理解を深化させ、さらには表現活動へと発展させていくことが可能となる。

リーディング指導の展開の基本に則って、要所を押さえた問いかけをするコツを紹介している本書は、英語授業“名人”への道を切り開いてくれるかもしれない。教師が傍らにおいて日々の授業改善の即戦力となる一冊である。（東條加寿子）

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
教員養成センター Teacher-training Center

中井弘一

中垣芳隆、東條加寿子、夫明美

浅田晋太郎、津戸真弓

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: [ttc@wilmina.ac.jp](mailto:ttc@wilmina.ac.jp)